

別表2 環境への取組の自己チェックリスト

1. 事業活動動へのインプットに関する項目

1) 省エネルギー、新エネルギー使用の拡大

	風力発電、水力発電、地熱発電、燃料電池等の新エネルギーの導入をしている
	太陽電池により太陽エネルギーを電気として利用している
	天然ガスを利用している
	コージェネレーション（発電の際の排熱を利用すること）システムを導入している
	地域冷暖房システムや地域熱供給システムの利用や、ソーラー給湯システム等により太陽エネルギーを給湯、暖房に利用している
	給湯設備において、断熱化等により省エネルギーを進めている
	省エネルギー型空調設備を積極的に導入している
	ごみ焼却熱等の廃熱を利用している
	コピー機、パソコン、プリンター等のOA機器について、エネルギー効率をチェックし、エネルギー効率の高い機器を積極的に導入している
	エレベーターの省エネシステム（運転の高度制御、夜間等の部分的停止等）を導入している
	二重窓、複層ガラスの設置等により建物の断熱性能を向上させている
	日射の室内への導入、床や壁面での蓄熱、通風の活用等により、太陽エネルギーを自然なかたちで使っている
	高効率蛍光灯、インバーター照明（高周波の電流を用いることにより高い効率を得る蛍光灯）等、照明機器の省エネルギー化を進めている
	ヒートポンプを導入している

2) 省資源、グリーン購入

省資源

	使用済みの自社製品の回収・リサイクル等に取り組んでいる
--	-----------------------------

再生紙の使用

	コピー用紙、コンピューター用紙、伝票・事務用箋等、印刷物・パンフレット等、トイレットペーパー、名刺、その他の紙について、再生紙又は未利用繊維への転換を進めている
--	--

	再生パルプの使用率や白色度を考慮した再生紙利用の目標・基準を立て、使用状況を把握しながら取り組んでいる
	再生パルプ使用率を印刷物等に明記している

その他環境に配慮した物品等の購入、使用

	エコマーク商品を優先的に購入している
	再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用している
	間伐材、未利用資源等を利用した製品を積極的に購入、使用している
	木材の調達に当たり、跡地の緑化・植林・環境修復が適切に行われていることに配慮したり、又は跡地緑化等に協力している
	その他、無漂白製品（衣料品等）、水性塗料等の環境への負荷の少ない製品を優先的に購入、使用している
	修理や部品交換が可能で、部品の再使用、素材の再生利用が容易な設計の製品を優先的に購入、使用している

環境に配慮した物品等の調達に係る基準

	環境に配慮した物品等の調達に係る基準、リストを作成し、現状に合わせて、見直しを行っている
	基準、リストに基づく調達状況を把握している
	原料・中間材の購入に当たって環境配慮のチェックを行っている

3) 節水、水の効率的利用

	雨水の貯留タンクや雨水利用施設の設置等により、雨水利用を行っている
	雨水を地下浸透させる設備（浸透升等）の導入や工夫を行っている
	汚排水の再利用（中水利用）を行っている
	節水型の家電製品、水洗トイレ等を積極的に購入している
	トイレに「水流し音発生器」を取り付ける等、トイレ用水を節約している
	蛇口に節水こま（適量の水を流す機能を持つこま）を設置している
	地盤沈下が問題となる地域にあつては、地下水汲み上げの削減を行っている
	水道配管からの漏水を定期的に点検している

2. 事業活動からのアウトプットに関する項目

1) 二酸化炭素の排出抑制、大気汚染等の防止

環境負荷の少ない燃料の使用

	都市ガス、灯油等の環境負荷の少ない燃料を優先的に購入、使用している
--	-----------------------------------

日常業務の管理に当たっての配慮

	空調の適温化（冷房 28 度程度、暖房 20 度程度）を徹底している
	空調を必要な区域・時間に限定して行っている
	空調・冷却設備の保守点検をこまめに行っている
	エレベーターの適正使用を徹底している
	照明の適正化、昼光の利用、スイッチの適正管理を積極的に行っている

生産プロセスの管理に当たっての配慮

	ボイラー等において、低空気比運転等の熱管理を徹底している
	ボイラー等の廃熱の利用を行っている
	インバーター等によるモーターの回転数制御を実施している
	電力不要時の負荷遮断、変圧器の遮断を行っている

大気汚染物質排出量の削減

	大気汚染の少ないプロセス・機器（低NOx燃焼機器等）を採用している
	日常の管理における大気汚染防止への配慮（燃焼管理等）を行っている
	大気汚染について、法令による基準より厳しい自主管理基準を設定し、その達成に努めている
	ばい煙等の測定・監視やばい煙処理設備の点検を定期的に行っている
	事故や災害の際の汚染防止対策のための準備を行っている

悪臭、騒音、振動等の防止

	悪臭防止のため排出口の位置等の配慮を行っている
	低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置・管理等により騒音・振動を防止するとともに、日常的な測定・監視を実施している

2) 化学物質対策

化学物質の管理の徹底

	有害性のおそれのある化学物質について、その種類、使用量、保管量、使用方法、使
--	--

	用場所、保管場所等を経時的に把握し、記録・管理している
	有害性のおそれのある化学物質の環境への排出量の計測、推定等を行っている
	有害性のおそれのある化学物質の表示を徹底している
	化学物質の安全性に関する情報伝達のための MSDS(化学物質安全性データシート)を使用している
	有害物質のタンク、パイプ類は漏洩、拡散等を防止できる構造となっている
	有害物質のタンク、パイプ等の保守・点検を定期的に行っている
	使用した有害物質を回収するシステムができています
	有害物質の輸送、保管等に当たり、事故時の汚染防止のための準備や訓練を行っている
	PRTR に取り組んでいる
	塩素系有機溶剤等の削減、代替物質への転換に取り組んでいる
	燃料油や溶剤等の揮発の防止に取り組んでいる
	屋外での除草剤、殺虫剤の使用の削減に取り組んでいる

特定フロンの削減、適正処理

	オゾン層を破壊する特定フロンの削減、全廃（生産用フロン、冷却設備・空調設備の冷媒用フロンの削減、ハロン消化設備等の代替）を行っている
	特定フロンの回収・適正処理に取り組んでいる

温室効果ガス（HFC、PFC、SF₆等）の排出抑制

	製造工程において、HFC、PFC、SF ₆ 等をどれだけ使用し漏出しているか把握している
	製造工程において使用する HFC、PFC、SF ₆ 等の回収処理に取り組んでいる
	製造工程において、可能な範囲で HFC、PFC、SF ₆ 等をその他の物質に代替している
	HFC、PFC、SF ₆ 等を使用しない製造工程に変換している
	製品購入の際には、できるだけ HFC、PFC、SF ₆ 等を使用していない製品を選ぶように配慮している
	HFC、PFC、SF ₆ 等を使用している製品を廃棄する際の回収に取り組んでいる

3) 製品の開発・設計等における環境配慮

製品（プライベートブランド商品を含む）設計に当たっての環境配慮

	製品の小型化・軽量化等により、同一機能に対して資源使用量のミニマム化を指向している
	製品の長寿命化を指向している
	製品の使用過程でのエネルギーの削減を指向している
	再生資源の積極的利用に取り組んでいる
	廃棄物の発生抑制のため、モデルチェンジの適正化に取り組んでいる

	リサイクルしやすいよう、素材の種類や製品の部品点数の削減や、ネジの数を減らすこと等による解体しやすい構造を指向している
	製品の包装は可能な限り簡素化している
	自社独自の環境保全型商品等の開発に積極的に取り組んでいる

製品の出荷、販売後における環境負荷の削減

	使用後の製品、容器包装等の回収・リサイクルに取り組んでいる
	フロン類の回収に取り組んでいる
	フロン類の漏洩防止のための留意点等、製品に関する環境への負荷を低減するための消費者への情報提供を行っている
	修理部品の長期的な確保に自主的に取り組んでいる
	消耗品の回収箱等を店頭に設置する等、その回収・リサイクルに取り組んでいる

製品（プライベートブランド商品を含む）に係る製品アセスメント等

	自社製品及び社外から購入する部品等について、想定されている環境負荷のチェックリストを作成している
	新製品開発、モデルチェンジ等に当たり、環境負荷の測定・記録や製品アセスメント（製品が廃棄物になった場合の適正処理困難性の評価、製品の生産から消費、廃棄に至る各段階での環境負荷の評価(ライフサイクルアセスメント)等を含む）を実施している
	製品の使用時や廃棄時の環境負荷の量をカタログ等に表示している
	既存製品についても、計画的に製品アセスメント等を実施している
	外部から製品の環境負荷に関するデータの提供の依頼があった場合、協力している

環境保全型商品等の販売及び消費者に対する情報提供

	再生資源を使用した商品、再生可能な商品、繰り返し使える商品、省資源・省エネルギー型の商品、容器包装を簡素化した商品、エコマーク製品等を重点的に販売している
	上記商品の販売目標を定め、販売促進に積極的に取り組んでいる
	販売の際に環境保全型製品の表示、製品アセスメントの結果の表示等を行っている
	消費者等に環境保全型商品に関する情報を積極的に提供している
	エコマーク及び自ら制定したマークや宣言を製品やパンフレット等に表示している

4) 廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理

紙の使用量の抑制（再生紙については「2」省資源、グリーン購入」参照）

	会議用資料や事務書類の簡素化に取り組んでいる
	両面印刷、両面コピーを徹底している
	使用済み用紙の裏紙の利用をしている

	使用済み封筒の再利用をしている
	電子メディア等の利用によるペーパーレス化に取り組んでいる

廃棄物の発生そのものを押さえる取組

	使い捨て製品（紙コップ、使い捨て容器入りの弁当等）の使用や購入を抑制している
	リターナブル容器（ビール瓶、一升瓶等）に入った製品を優先的に購入・使用している
	再使用又はリサイクルしやすい製品を優先的に購入・使用している
	コピー機、パソコン、プリンター等について、リサイクルしやすい素材を使用しているものを採用している
	詰め替え可能な製品の利用や備品の修理等により、製品等の長期使用を進めている
	包装・梱包（段ボール、魚箱等）の削減、再使用に取り組んでいる
	製造段階での工程廃棄物及び不良材等の発生抑制に取り組んでいる

オフィス等におけるリサイクルの促進

	紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池等について、分別回収ボックスの適正配置等により、ごみの分別を徹底している
	回収した資源ごみがリサイクルされるよう確認している
	シュレッダーの使用を機密文書等に限っている
	コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている
	食べ残し、食品残渣等の有機物質については可能な限りコンポスト化（堆肥化）し、土壌に還元、利用している
	廃食用油のせっけん等への再利用を行っている
	包装、梱包等のリサイクルに取り組んでいる

出荷・販売等に際しての梱包等に関する配慮

	簡易包装の推進、多重包装の見直し、量り売り、ばら売りの推進等により、包装紙、容器、買い物袋、食品トレイ、ラップ等の削減に取り組んでいる
	詰め替え式の容器・製品の販売促進に取り組んでいる
	リターナブル容器入りの製品の販売促進に取り組んでいる
	紙パック、食品トレイ、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル等の店頭回収・リサイクルに取り組んでいる

生産工程における取組

	生産工程から発生する金属屑、紙屑、廃液、汚泥等の回収・再利用のための設備を設置し、活用している
--	---

産業廃棄物等の適正処理

	廃棄物管理票（マニフェスト）をもとに廃棄物の適正な処理を確認している
--	------------------------------------

	廃棄物の最終処分先を定期的に、直接、チェックしている
	廃棄物焼却の際、塩化ビニール等焼却に適さない物が混入しないよう徹底するとともに、ばい煙の処理、近隣環境への配慮等を行っている
	メタン発生防止のため、生ごみ等の分別・リサイクルや適正な焼却処分を極力行うことにより、有機物の埋立処分を抑制している
	有害廃棄物、医療廃棄物の管理（リストの作成、マニフェスト、適正処理のチェック）に取り組んでいる

5) 排水処理

	水質汚濁の少ないプロセス・機器（廃液の回収・再利用等）を採用している
	排水処理装置を適切に設置している
	排水が閉鎖性水域（湖、内湾等）に流入する場合は、窒素・燐の除去対策を講じている
	排水処理にクローズドシステムを採用している
	有害物質や有機汚濁物質（生ごみ等）ができるだけ混入しないようにしている
	水質汚濁等について、法令による基準より厳しい自主管理基準を設定し、その達成に努めている
	排水等の測定・監視や排水処理設備の点検を定期的に行っている
	事故や災害の際の汚染防止対策のための準備や訓練を行っている

6) 輸送に伴う環境負荷の低減

自動車の購入・選択に当たっての配慮

	自動車の購入の際、排ガスのレベル、燃費、リサイクル素材の使用等を考慮している
	最新の排ガス規制や騒音規制に適合した車への代替を進めている
	社有車を、ハイブリッド車や低燃費車、低排出ガス認定車、電気自動車、圧縮天然ガス自動車等の低公害車への切り換えに取り組んでいる

モーダルシフト（自動車輸送から鉄道、海運へのシフト）の推進

	鉄道・海運を積極的に利用している
--	------------------

輸送の合理化・輸送方法の工夫

	最大積載量に見合った輸送単位の設定を行っている
	共同輸配送、帰り荷の確保に取り組んでいる
	発注・輸送の計画化・平準化、行き過ぎた少量・多頻度輸送やジャスト・イン・タイ

	ムサービスの見直しを行っている
	通い箱（繰り返し使用する梱包材）を利用している
	駐車場、荷さばき場の確保等による周辺交通への障害を防止している

自動車の使用に当たっての配慮

	アイドリングストップ等運転方法の配慮（急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジンの停止等）を行っている
	排気ガス・騒音のレベルを抑えるため適正な車輛整備を行っている
	資材搬入口において、騒音・粉塵対策、渋滞防止等の環境対策を行っている

7) 建築物の建築・解体、開発事業に当たっての環境配慮

新規事業を始める際の環境影響評価・環境配慮

	新規事業を始める際、企画・計画・設計段階、建設段階、運用段階、改修・解体段階のそれぞれの段階における環境影響を評価し、これに基づいて環境保全のため適切な対策を行っている
	事業実施前に行われた環境影響評価の結果が妥当であったかどうかのフォローアップを、事業中及び事業後に行っている
	発注者及び設計者に対し、建設副産物のリサイクル、合板型枠の使用合理化等、環境保全の提案をしている

環境整備と周辺の自然環境の保全

	敷地内、壁面、屋上等の緑化を行っている（大気浄化、都市気象の緩和にも資する）
	地域の自然環境との調和に配慮し、生態系や景観の保全に取り組んでいる
	環境を改変する代替措置として環境修復（ミティゲーション）を計画・設計に盛り込んでいる

環境負荷の少ない建築材の使用等

	建築物の建設・改築に当たり、環境負荷の少ない建築材の使用、建築材の使用合理化に取り組んでいる（合板型枠等の木材の使用合理化、高炉セメント、エコセメント、再生素材の積極的使用等）
--	--

環境に配慮した工法

	低騒音型の建設機械の使用等により工事騒音・振動の防止に取り組んでいる
	アスベストや粉塵の飛散防止等に取り組んでいる
	工事濁水による水質汚濁の防止等に取り組んでいる
	出入り車輛の排ガス・騒音・振動の防止に取り組んでいる
	堀削工事、盛土工事における地盤の変化の防止に取り組んでいる

	工事中の樹木の保護を行っている
	木材、コンクリート塊、汚泥、残土等の建設副産物の削減、再利用、分別、リサイクルに取り組んでいる
	フロン、アスベストその他の有害物質の適正処理、代替材の使用等を行っている

建設物、構築物の環境への影響を予防するための方策

	竣工建築の環境面に配慮した管理、メンテナンス等を行っている
	建造物の老朽化や運用の診断を行い、改善や環境保全設備の見直し等の提案を行っている
	建築物の耐久性の向上に取り組んでいる

施設閉鎖、建築物の解体等の際の環境配慮

	施設の閉鎖時に、環境影響評価を行っている
	建築物の解体に当たっては、吹き付けアスベストを事前に除去している
	現状から用途転換をする等の計画プロジェクトの前に環境影響評価を行っている

3 . 環境経営システムに関わる項目

1) 環境保全のための仕組み・体制の整備

環境関連法規等の遵守状況

	法規制等の最新情報を常に入手している
	法規制等の変化に対応する手順ができています

実施体制の構築等

	環境経営システムを実行するに当たり、役割分担や責任、権限等が明確に定められている
	環境保全活動等を実行するに当たり、担当する者、あるいは組織が明確になっている
	環境保全活動等を実施するに当たり、必要な人材や情報、その他の資源が用意できる体制がある

環境コミュニケーション

	環境保全活動に必要な情報やその実績、評価結果等が内部で適切に伝達される仕組みが整えられている
	外部からの意見や苦情、問い合わせ等を受け、対応する仕組みが整えられている
	環境コミュニケーションの結果等を記録する仕組みが整えられている

環境活動計画の運用、実行

	環境保全活動上、必要な作業手順や運用基準等が明確に定められている
	必要な場合、委託・協力会社等に対しても作業手順や運用基準が徹底されるよう、配慮している

取引先への働きかけ等

	協力会社、納入会社、委託業者、子会社等について、環境保全の面から評価し、その選定に活かすとともに、改善支援を行っている
	委託契約等に環境配慮が契約管理に組み込まれている
	協力会社、子会社等に教育プログラムを提供している
	顧客や発注者に対し、環境保全の提案をしている

2) 環境教育、環境保全活動の推奨等

従業員等への教育・訓練の実施及び意識の向上

	従業員等に環境意識の向上や、環境保全活動に必要な教育を行う計画を定めている
--	---------------------------------------

	従業員等が環境保全活動上必要な資格、能力等を保有できるよう養成している
	委託・協力会社等の従業員等についても、必要な意識、能力等を保有するよう、対応をとっている
	従業員の環境教育のプログラムがある
	従業員の採用の際、環境への意識の高さ、環境に関する知識等を条件にしている

従業員等の自主的なボランティア活動に対する支援

	ボランティア休暇等、組織の制度として支援システムがある
	環境に関する研究や活動を行っているサークル等に対する支援を行っている
	従業員、学生の環境に関する国際的活動団体への参加又は国際会議出席のための支援を行っている（資金面での支援等）

通勤・通学に係る環境への負荷の削減

	通勤・通学等に公共交通機関を利用するよう指導している
--	----------------------------

環境に関するカリキュラム（特に教育機関の場合）

	環境に関する科目、講座、学科又は学部がある
	環境に関する科目が必須科目となっている
	図書館等に環境に関する図書を豊富に揃えている
	環境教育を実施している

3) 情報提供、社会貢献、地域の環境保全

事業上の環境に関する情報の提供、公表

	事業活動に伴う重要な環境負荷、環境に関する主要な目標、環境担当者の連絡先等を公表している
	消費者等に対して、情報提供や啓発活動を行っている
	外部からの情報提供、公表の依頼に対する窓口を置いている

環境に関する取組等に関する外部の関係者の意見等の聴取

	意見聴取を定期的に行い、環境に対する取組の際に考慮している
	外部の関係者の意見を聴取する窓口を設けている

環境保全に関する団体等への参加、支援

	環境に関する基金・団体の設置、既存の基金・団体を支援している（人材派遣、資金面での援助、従業員の給与の端数を集めた寄付、広報活動への協力等）
	環境関係の基金等へのマッチングギフト（従業員労働組合等の任意の寄付と同額の寄付を事業主として行うこと）を行っている

	地域のボランティア活動等に積極的に参加し、協力や支援を行っている
	環境に関連する表彰制度を実施している
	大学に環境関係の寄附講座を開く等、研究機関への支援を行っている

4) 環境ビジネス、技術開発

環境に関する情報のサービス

	環境に関する市民向けセミナー、学会、シンポジウム、講座等の開催や、環境に関する書籍、研究報告書、定期刊行物の発行を行っている
	顧客のための環境情報提供システム（パソコン通信等）を持っている

環境に関する調査・研究

	環境に関する調査・研究を自己又は研究機関等に委託して積極的に行い、その成果を公表している
--	--

環境に関するコンサルティング業務

	環境管理、環境基金、環境ビジネス、環境汚染リスク管理等に関してコンサルティングを行っている
	コンサルティングを行う担当のスタッフがいる

環境保全に貢献する金融商品（寄付金付預金、環境公益信託、環境保護カード等）

	環境保全に貢献する金融商品を開発し、売上目標を立てて取り組んでいる
--	-----------------------------------

環境問題の解決に役立つ技術開発

	資源、省エネ、環境保全を達成することを可能にする技術及び商品を開発し、社会に提供している
	開発される技術が環境に与える影響の評価を行っている

5) 国際協力及び海外事業における配慮

環境に関する技術移転

	開発環境保全技術やノウハウについて、海外への情報の提供を行っている
	技術者の派遣、国内研修の受入等により技術移転の推進を進めている

海外の環境保全活動への協力

	海外における環境対策に資する NGO 活動、緑化等の諸活動に積極的に協力している
--	--

海外活動での環境配慮

	進出先の従業員、周辺住民等に必要な情報を積極的に提供し、環境配慮に関する企業広報を積極的に行っている
	進出先の環境配慮の取組に対する本社の支援体制を整備している
	進出先国の排出基準、目標等を遵守しているとともに、その基準が日本より緩やかな場合は、日本の基準を適用している
	進出に当たって、進出先の環境に与える影響の事前評価と、進出後の環境影響の事後評価によるフィードバックを行っている

6) 投資・融資における環境配慮

環境に配慮した投融資

	投資融資にあたり、環境面から審査を行っている
	エコファンドを売り出している
	投資融資対象事業の環境影響評価に関するノウハウを持っている
	社会的責任投資（SRI）が方針として謳われている
	環境審査担当のスタッフがいる
	環境面からの制限業種リストを作成し、融資窓口での制限を徹底する等、環境上問題のある事業への投融資は制限している

環境優良事業の支援・育成

	金融機関において省エネ設備、省エネ住宅等への特別融資枠や優遇金利制度がある
	環境保全に関する公的融資制度の利用を推進している

資料3 . 環境活動レポートの例

環境活動レポートの例を以下に示します。

この例は、環境行動レポートの統一的な様式を示すものではなく、あくまでも一例として、本文第5章のガイドラインに沿って、必要な項目を順に記入する形で記述したものです。実際に環境活動レポートを作成するに当たっては、必要な項目がわかりやすく記述されていれば、この例に示された順序、分量、書式等にとらわれる必要はありません。また、一般にわかりやすくするため、平易な文章を工夫したり、図表を用いても結構です。

社 工場 環境活動レポート(例)

平成 年 月 日

環境方針

当社は、当社の経営理念に基づき、環境との共生・調和、環境への取組を最重要課題として認識し、自ら責任を持ち、全社一丸となって環境との共生・調和に配慮した事業活動に取組み、環境負荷を継続的に削減していきます。

当 工場では、 の製造のために電力及びボイラー用重油を消費するとともに、原材料として を購入しています。これらの事業活動に伴う環境への負荷を削減するため、以下の環境への取組を行います。

工場内の電気使用のあり方を見直し、製造工程での省エネルギーに取組みます。

熱効率の高いボイラー等の省エネルギー設備の導入を図ります。

の投入のあり方を見直し、産業廃棄物の削減に取組みます。

を再生原料に代替を図るとともに、グリーン購入に取組みます。

排ガス及び排水について、自主管理値を設定し、公害の防止に取組みます。

環境活動レポートを公表する等、特に地域住民の皆様との環境コミュニケーションに積極的に取組みます。

平成 年 月 日制定

社 工場 工場長

環境 太郎(署名)

環境目標とその実績

1) 目標の達成状況(実績)

当工場については、以下の目標を掲げて環境活動に取り組んできた。

	2000年度	2001年度	2002年度
製品出荷額当たり二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂ /億円)			
製品出荷額当たり廃棄物排出量 (トン/億円)			
製品出荷額当たり総排水量 (m ³ /億円)			

大気汚染物質、水質汚濁物質、騒音、振動等については、関係法令による規制を遵守する。

当工場における二酸化炭素排出量(自動車の利用によるものを除く。)及び廃棄物排出量の過去3年にわたる実績は以下の通りである。

		2000年度	2001年度	2002年度
二酸化炭素排出量	総量 (kg-CO ₂ /年)			
	製品出荷額当たり (kg-CO ₂ /億円)			
廃棄物排出量	総量 (トン/年)			
	製品出荷額当たり (トン/億円)			
総排水量	総量 (m ³ /年)			
	製品出荷額当たり (m ³ /億円)			

2002年度の二酸化炭素排出量は、目標を %クリアしただけでなく、前年度に比べると、総量で %減、製品出荷額当たりでも %減となっている。これは省エネへの取組の徹底により、二酸化炭素の主な排出要因である電気消費量を低く抑えることが出来たためである。なお、総量だけでなく製品出荷額当たりでも減少していることから、資源生産性という観点からみると、資源生産性は %向上したと言える。

2002年度の廃棄物排出量は、総量では前年度に比べて %増加したものの、製品出荷額当たりで見ると %減少しており、分別及びリサイクルへの取組が昨年度に比べて進んでいると言える。

2002年度の総排水量は、総量では前年度に比べて %増加したものの、製品出荷額当たりで見ると %減少しており、総排水量の低減につながる節水への取組(節水機器の導入等)が昨年度に比べて進んできた結果だと言える。

「環境関連法令による規制の遵守」については、関係機関等から特に違反についての指摘等はなかった。

2) 今年度以降の目標

今後は、製品出荷額当たりだけでなく、総量の方も着実に減らしていくことを目指し、2000年度から2002年度までの平均値に対し3年間で %低減させることを当面の目標とする。

このため、以下の通り、年間 %ずつ低減することを当面の目標とする。

	2003 年度	2004 年度	2005 年度
製品出荷額当たり二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂ /億円)			
製品出荷額当たり廃棄物排出量 (トン/億円)			

また、昨年度と同様に、

大気汚染物質、水質汚濁物質、騒音、振動等については、関係法令による規制を遵守するとともに、別表 に定める自主管理値を定め、公害の防止に取り組む。

さらに、上記の目標のほか、具体的な目標として以下のものを検討する。

輸送の効率化

平成2003年度に製品輸送における積載率及び帰りの空車率を調査し、次年度以降、輸送効率化の観点から、積載率の向上及び帰りの空車率の低減についての目標を検討する。

管理部門におけるリサイクル等の推進

当工場では、管理部門においてコピー用紙等の紙を大量に使用している。コピー用紙については、2003 年度に再生パルプ %の再生紙に切り替えるとともに、両面コピーの徹底等により、コピー用紙の使用量を3年間で %減らすことを目指す。

また、管理部門から排出されるごみの組成の調査を行い、ごみに占める可燃物の量の低減目標について検討する。

3) 環境目標の担当部署及び責任者

目標項目	担当部署	責任者
製品出荷額当たり二酸化炭素排出量	製造 1 課	課長
製品出荷額当たり廃棄物排出量及び排水量	製造 2 課	課長
環境法令遵守、自主管理値遵守	製造 1 課	課長
輸送の効率化	営業課	課長
管理部門におけるリサイクル等の推進	総務課	課長

主要な環境活動計画の内容

(1) 工程における環境への負荷の低減・管理

当工場では、熱効率の高いボイラーをはじめとして、省エネルギー設備や水処理設備、騒音防止設備が既に導入されており、これらの設備の管理を適切に行うことが、環境負荷低減の第一歩である。特に、以下の事項について、生産現場の管理を徹底させることに重点を置く。

ボイラーの低空気比運転管理の徹底
 排水処理関係の管渠の定期点検
 さらに、工場からの環境負荷を低減させるため、以下の対策を講ずる。
 工場における昼休みの消灯の徹底
 平成 年度、工場の照明をインバータを用いた蛍光灯に順次転換
 平成 年度以降、工場の屋根を用いた太陽熱給湯システムの設置、太陽電池パネルの設置について検討

(以下、具体的取組を記述)

環境活動の取組結果の評価

(1) 工程における環境への負荷の低減・管理

当工場では、熱効率の高いボイラーをはじめとして、省エネルギー設備や水処理設備、騒音防止設備が既に導入されており、これらの設備の適切な管理に取り組んだ。特に、以下の事項について、生産現場の管理を徹底させることに重点を置いた。

ボイラーの低空気比運転管理の徹底 年間を通して を できた
 排水処理関係の管渠の定期点検 毎月実施し問題はなかった
 さらに、工場からの環境負荷を低減させるため、以下の対策を講ずる。
 工場における昼休みの消灯の徹底 全部署で実施できたが、 課で決算時に
 徹底できなかった
 平成 年度、工場の照明をインバータを用いた蛍光灯に順次転換
 工場全体の10%の蛍光灯を転換
 平成 年度以降、工場の屋根を用いた太陽熱給湯システムの設置、太陽電池パネルの設置について検討 2002年度は設置に至らず 2003年度に持ち越し、屋根の強度が不足していることが判明し、2003年度に補強工事を実施する

(以下、取組結果の評価を記述)

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

大気汚染物質、水質汚濁物質、騒音、振動等の違反について、関係機関等から特に指摘等は無かった。また、訴訟等も同様に1件も無かった。

当工場の概要

(1) 事業者名及び代表者名

社 工場 代表取締役社長

(2) 所在地 県 市 町 丁目 番 号

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 取締役製造部長

担当者 工場環境対策係

連絡先 電話 000-000-0000 F A X 000-000-0000

(4) 事業の内容

及び の製造、販売

(5) 事業の規模

製品出荷額 億円

主要製品生産量 製品 A トン

製品 B トン

従業員数 人

工場延べ床面積 平方メートル

商事 環境活動レポート（例）

平成 年 月 日

環境方針

商事は、地域性及び環境への関連を考慮し、以下の環境方針を定め、全ての事業活動を通じて、その実現に取り組みます。

事業を通じた地球環境保護

全ての事業活動において、地球環境保護に寄与できるよう努めます。

資源・エネルギーの効率的利用

資源・エネルギーの消費や廃棄物の排出状況等をチェックし、環境への負荷を認識し、省資源、省エネルギー、リサイクル、そしてグリーン購入に努めます。

環境関連法規の遵守

環境関連の諸法規及び当社が同意した各種協定を遵守します。

継続的環境改善の実施

環境保全に関する目的・目標を設定し、取組結果を見直すことにより、継続的な環境改善に取り組みます。

環境啓発活動と地域・社会貢献活動の推進

環境活動レポートを公表する等、社内外に対して環境保護に関する情報の提供を行い、また、啓発、教育活動を推進するとともに、地域社会の一員として地域・社会貢献活動を推進に努めます。

平成 年 月 日制定

商事 代表取締役

環境 三郎（署名）

事業の概要

（１）事業者名

商事

代表取締役 環境 三郎

（２）所在地

県 市 町 丁目 番号

（３）環境保全関係の担当者連絡先

担当者

連絡先 電話 000-000-0000 F A X 000-000-0000

(4) オフィスの規模

職員数 人
オフィス延べ床面積 平方メートル

(5) 事業内容

各種 OA 機器、部品の販売

環境目標とその実績

(1) 目標の達成状況

当社は、以下の目標を掲げて環境活動に取り組んできました。

(A) 二酸化炭素排出量、コピー用紙使用量及び水使用量を、それぞれ毎年 2% 低減させる。

		2000 年度	2001 年度	2002 年度
二酸化炭素排出量	総量 (kg-CO ₂ /年)			
コピー用紙使用量	総量 (kg/年)			
水使用量	総量 (トン/年)			

(B) コピー用紙以外の廃棄物について 年度のレベルから増加させない。

当社における今年度を含めて過去 3 年にわたる実績は以下の通りである

		2000 年度	2001 年度	2002 年度
二酸化炭素排出量	総量 (kg-CO ₂ /年)			
コピー用紙使用量	総量 (kg/年)			
水使用量	総量 (m ³ /年)			
廃棄物発生量 (コピー用紙以外)	総量 (トン/年)			

2002 年度の二酸化炭素排出量については、計画通りの省エネに取り組んだ結果、2% 低減という目標通りの結果となった。

コピー用紙使用量については、両面コピー等の取組が進み、目標を上回り前年度比 % の低減という結果となった。

2002 年度の水使用量については、当初予定していた節水機器の導入が進まず、目標である 2% 低減に届かず、前年度比 % 低減という結果となった。

2002 年度の廃棄物発生量については、資源の分別に取り組んだ結果、前年度より %、目標年度の 年度の発生量より % 低減という結果になった。

(2) 今年度以降の目標

二酸化炭素排出量、コピー用紙使用量及び水使用量については、これまでと同様、2005年度まで毎年2%低減させることを当面の目標とする。さらに、廃棄物についても、2005年度まで毎年2%低減させることを新たな目標として掲げる。

2003年度以降の目標値

		2003年度	2004年度	2005年度
二酸化炭素排出量	総量 (kg-CO ₂ /年)			
コピー用紙使用量	総量 (kg/年)			
水使用量	総量 (m ³ /年)			
廃棄物発生量 (コピー用紙以外)	総量 (トン/年)			

(3) 環境目標の担当部署及び責任者

総務部 部長
営業部 部長

主要な環境活動計画の内容

(1) 数値目標を達成するための取組

二酸化炭素排出量 (省エネに関する取組)

- ・昼休み等の消灯を実施する
- ・冷房の温度は28度に徹底する

(以下略)

廃棄物排出量 (リサイクルに関する取組)

- ・以下の分別を徹底する

A 紙類：OA用紙、雑誌、新聞紙、上質紙、ポスター、封筒

B 容器類：アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、瓶、紙パック

(以下略)

水使用量 (節水への取組)

(略)

(2) その他の取組

グリーン購入への取組

今年度作成予定の製品パンフレットを全てエコマーク商品の印刷用紙及びインクで作成する。

地域・社会貢献活動の推進

地域の環境活動の一つの拠点として機能すべく、市民等の交流の場として、会議室を一定の時間帯に開放するとともに、独自のイベント等を実施する。

環境活動の取組結果の評価

(1) 数値目標を達成するための取組

二酸化炭素排出量（省エネに関する取組）

・昼休み等の消灯を実施する

部署毎に調査を実施したところ、昼休みに消灯を実施したは部署は1 / 3 程度の部署に留まっていた（より徹底を図る方策が必要）。

・冷房の温度は28度に徹底する

夏季に部署毎に調査を実施したところ、徹底されていた部署は半数であった。部署毎に原因を調査し、その調査結果を取りまとめた（今後の方策検討に活用）。

（以下、取組結果の評価を記述）

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる主な環境関連法規

主な適用法規	該当する活動
省エネルギー法（第2種）	大規模ビルにおける電力の使用
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の排出の際の適正処理
（以下略）	

(2) 違反、訴訟等

違反については関係機関等から特に指摘等は無く、また、訴訟等も同様に1件も無かった。

環境省 総合環境政策局 環境経済課
〒100-8975 東京都千代田区霞が関1 - 2 - 2
TEL : 03-5521-8240 FAX : 03-3580-9568
e-mail : ea21@env.go.jp